

1. みどりのベルト計画の策定について

1) 計画策定の背景

近年、区政を取り巻く状況を見ると、災害などによる安全の危機や、老後や子育てをめぐる不安、教育にかかわる諸問題などが以前にも増して大きな課題となっています。あわせて、都市のヒートアイランド現象や自然環境の減少、ひいては地球温暖化や野生動植物の絶滅など、地球規模の環境破壊が心配されており、まちのうるおいや、環境保全に対処していく区民要望の広がりとともに、みどりの保全・創出など生活を取り巻く環境への関心が一段と高まってきています。

そのような中で区は、平成12年に新たな基本構想として「杉並区21世紀ビジョン」を定め、まちの将来像として「区民が創る『みどりの都市』杉並」を掲げました。このビジョンは区政運営の基本指針となるもので、特にみどりの分野においては、武蔵野の面影を残すみどりや水辺、歴史を感じさせる街並みなどを杉並のみどりの特徴として生かしながら、美しい住みよいまちを目指すことにしています。そのため、公園など公共のみどりを増やすとともに、住宅地や事業所などの緑化を進め、それを相互に結んで、みどりや水辺などの自然をよみがえらせ、さまざまな生き物が生息できる、うるおいのある環境を創り出すことが大きな課題となっています。

このような状況を踏まえ、みどりの豊かさを実感し、うるおいのある安心で活力に満ちた区民生活を実現するために、連続したみどりを創り出し、それを次の世代に引き継いでいく取り組みとしてみどりのベルト計画を策定し、今後の重要な施策としてその具体化と推進をはかっていく必要があります。

2) みどりのベルト計画にかかわる区の計画の状況

平成11年3月に策定された「杉並区みどりの基本計画」では、緑化の計画目標などに加え、区内の点、線、面のみどりを有機的に関連づけることで、利用やそれらの機能を高めることが可能となることから、植生の連続性、生きものの移動経路を確保するなどの生態的視点、風の道による気象の緩和などの環境保全的視点、避難経路、延焼遮断といった防災的視点などを重視した「みどりと水のネットワーク」の推進を挙げています。

また、区の基本構想の実現に向けて、「杉並区基本計画」や「杉並区実施計画」においては、みどりの豊かさを実感できる環境と調和のとれたまちづくりを進めるため、民有・公共のみどりをネットワークで結ぶ「みどりのベルトづくり」に取り組む、としています。

さらに、平成15年3月に改訂された「杉並区環境基本計画」では、基本目標の一つに「自然環境が保全され、さまざまな生き物が生息できるまちをつくる」を挙げ、連続したみどりを保全・創出するために、「みどりのベルトの創出とビオトープのネットワーク化」を今後の具体的な取り組みとして位置付けています。

3) みどりのベルトに期待される5つの効果

点在するみどりを結び、連続した帯状のみどりにしていくことで、みどりが持つ機能を最大限に活かすことができます。以下は、みどりが持つさまざまな機能を整理して、みどりのベルトを形成することによって期待される効果をまとめ、併せて、本区において注目すべきみどりの要素を挙げています。

都市熱環境の改善

都市における大規模な緑地とそれに連なるみどりは、低温帯を形成するとともに、市街地への冷気の流入路となる「風の通り道」を形成します。そのことによって低温域を拡大し、ヒートアイランドを分断・縮小するという効果が期待されます。

【注目すべきみどりの要素】

- 低温域を形成する大規模な緑地（善福寺公園・和田堀公園・善福寺川緑地 等）
- ヒートアイランドを分断・縮小、低温域を拡大する「風の通り道」
(善福寺川・神田川・幹線道)

生物多様性の確保

都市化により多くの動植物が姿を消しつつある中、公園・緑地・農地等みどり豊かな環境は、地域の生き物の生息・生育空間を形成します。また、それらを結ぶ連続したみどりは、区内及び区を越えた生き物の移動経路となることから、生物多様性の向上の面で効果が期待されます。

【注目すべきみどりの要素】

- 生物の生息・生育の拠点となる大規模な緑地（善福寺公園・和田堀公園・善福寺川緑地 等）
- 既存の寺社林（井草八幡宮 等）、屋敷林、個人の庭、小規模な樹林や農地、水面
- 学校の緑地化（例：和泉小学校の校庭の芝生化）

防災機能の向上

都市災害時の危険度が高い密集市街地では、帯状のみどりが延焼遮断帯を形成します。また、避難地となるオープンスペースと緑化された避難経路となることから、都市火災からの避難機能の充実と安全なまちづくりの面で効果が期待されます。

【注目すべきみどりの要素】

- 避難地としてのオープンスペース（公園・緑地・学校・グラウンド・農地）
- みどりの延焼遮断帯（善福寺川・神田川流域の緑地 等）
- 延焼遮断帯となる道路における高木植栽（環状7号線・環状8号線、その他幹線道路）

生活ネットワークの向上

歴史・文化資源となるみどりや四季を感じるみどりなどを、通勤・通学・買い物・散策など日常の動線と結び付けることにより、みどりとふれあう機会の多い生活ネットワークの形成と、みどりが実感できるまちづくりの面で効果が期待されます。

【注目すべきみどりの要素】

- 道路緑化（街路樹・植栽帯 等）および沿道緑化（接道部緑化・屋上緑化 等）
- 住宅地における庭や接道部の緑化
- 生活ルート（買い物・通勤・通学等）・散策ルート（緑道・知る区ロード 等）の緑化

都市の景観形成

みどりは、潤いのある美しいまちをつくるために、欠かすことのできない大切な資源です。景観的アクセントとなるみどりの連なりは、良好な都市景観を形成するとともに、まちの個性の演出という面での効果が期待されます。

【注目すべきみどりの要素】

- 公園・緑地及びその他景観地（農地・樹林・寺社・民間グラウンド 等）
- みどりと水の空間軸・みどりと水のプロムナード軸・景観形成道路・修景道路
- マンション等開発時の緑化誘導方策の推進



善福寺川と善福寺川緑地

4) 計画検討の課題

みどりを結び連続したベルトを形成していく計画は、自然環境や防災、景観形成などの面から見たみどりの機能や効果（メリット）をもっと生かすように、そのネットワーク化を図っていくものです。そのため、条件によっては、日照や見通しの悪さなどから見たみどりがもつ問題性や障害もあることを忘れてはなりません。

人によっては、みどりによる日陰や落ち葉が迷惑となる場合もあります。また、生物の生息場所となる空地の安全点検、交通標識・信号にかかる支障枝の除去など、みどりの適正な管理がこれからも求められます。

このような、みどりがもつ問題性を踏まえた上で、みどりを次の世代に引き継ぐ共有の財産として、区民全員が協力し合ってみどりのベルトづくりに取り組む必要があります。

①みどりの保全・創出について新たな仕組みを考えます

公園・緑地の充実や道路・河川のみどりの再整備などのほか、区民が主体となる緑化活動への支援など、緑地の保全・創出の新たな仕組みを考えます。

②みどりの質の向上について考えます

動植物の種の多様性や生息・生育場所の多様性を向上していくために、みどりのベルトの質について考えます。

③みどりとのふれあい促進について考えます

自然環境と直接ふれあい知識を深める場にしていくようなみどりのベルトを考えます。

④みどりのネットワーク化を考えます

地域特性や実情を生かしたさまざまなみどりでまちをつなげること、生きものの生息場所や移動経路のこと、みどりの利活用からみた人のつながりなどについて考えます。

⑤協働によるみどりづくり

区民・事業者及び区の協働により、みんなで育てるみどりのベルトづくりを考えます。